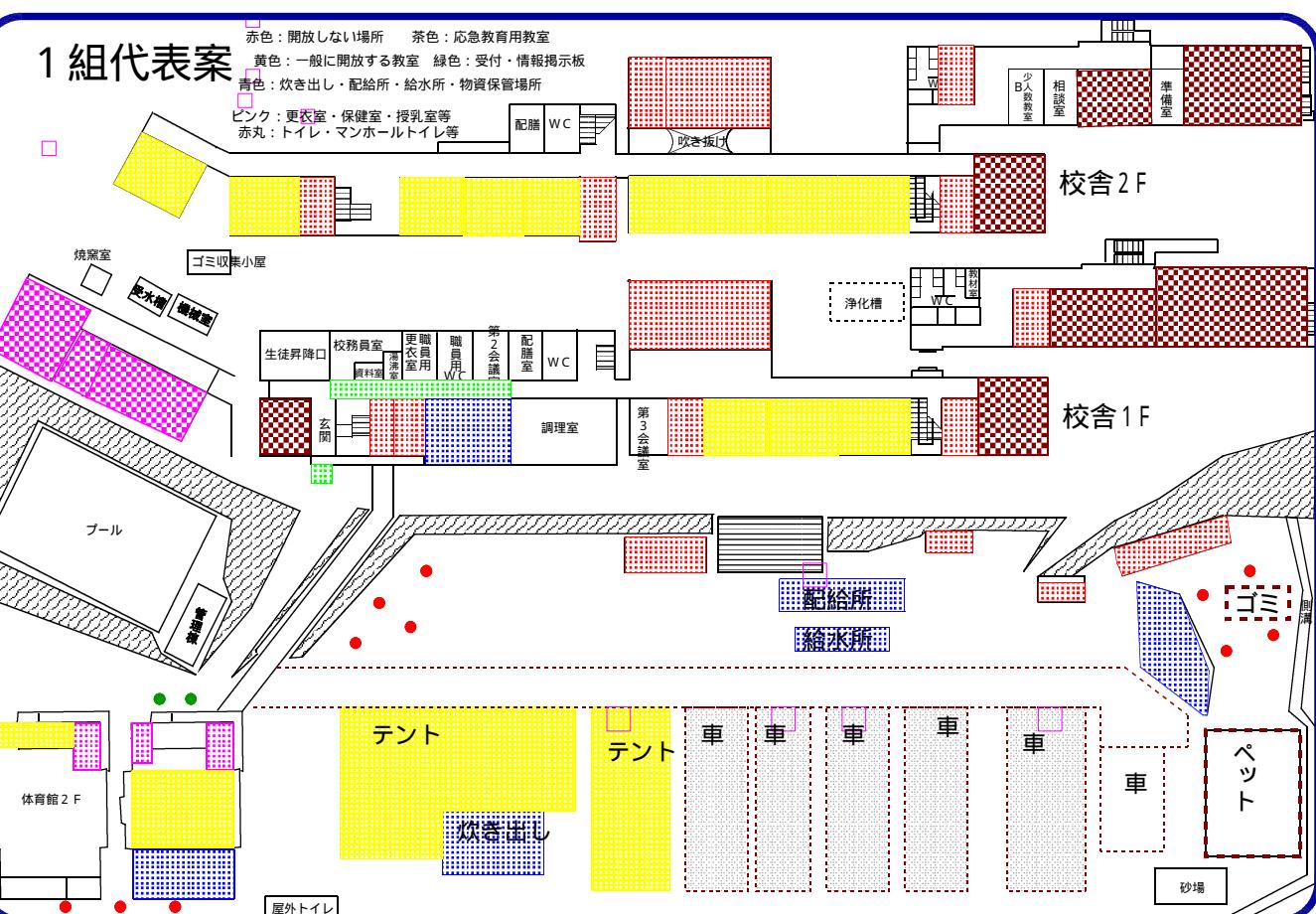


初声中学校クラス代表案紹介

1組

- 項目 設置するもしくはしない理由
- トイレ いつでも使用できるように学校全体に設置。
 - 照明 炊き出しの火などでランプを作れば夜の移動はできるのではないかと考え、設置しない。
 - 電気 ベルト機を発電機として使用すると考える。
 - 食料配付 色々な方向から受け取るために、校庭階段下に設置。
 - 水、食料など 雨の場合は体育館ステージ。
 - 情報交換場所 人々の混乱を避けるため、一定の設置場所が必要。
 - 救護保健場所 手当のための器具が揃っている保健室に設置。
 - 救援物資受け入れ保管場所 広くて出入りが可能な第一会議室に設置。
 - 更衣室 カーテンがあり、プライバシー保護の点から美術準備室に設置。さらに、年齢や体の不自由な人用の部屋も設置する。
 - ペット受け入れ場所 夜中に逃げ出すのを防ぐためにネットがある場所に設置。
 - テント 夜の寒さを防ぐために、炊き出し場所に近い所に設置。
 - 遊び場 傷ついている人がいるかもしれないで設置しない。
 - ゴミ置き場 スペースの確保、おいを防ぐという点からバックネット裏に設置。
 - 受付 さまざまな地区から来る人たちに対応できるよう、学校の窓口となるべき玄関に設置。
 - 車誘導対策、車スペース 広く、Uターンのしやすいテニスコート付近に設置。
 - 喫煙場所 周囲の健康被害を考えて、設置しない。
 - ヘリポート 煙に作ることが可能ではないかと考えた。
- 避難所プランを立てていく途中で、なかなか意見が一致しないことがあり、気持ちがひとつにならなかったが、考え方の視点を変え、欠点のみを話し合うではなく、利便性を追求していくうちに、班員全員が納得できるプランとなった。また、ひとつひとつの施設の利用がいかに被災者のためになるのか、日頃、何気なく、口にしている食料や水の大切さを改めて実感することができた。そして何よりも人ととのつながりが必要不可欠なものであると感じた。

私たちは日常の学校生活の中でも助け合いの気持ちを大切にし、災害だけではなく、クラスや学年の課題に冷静に、積極的に関わっていくことが大切なではないだろうか。



2組

校舎 地震発生が2月であることを考え、お年寄り、けが人、幼い子どもなど「要援護者」のスペースを、体育館よりは暖かい校舎内に設置する。授業用の11教室～生徒のいない夜間は期日を決めて一般被災者が寝泊まりできるよう開放する(平等になるように順番に…)

教室内の配置 通路を中心にして壁面を被災者が利用できるようにする。避難生活の疲れを少しでもとれるように配慮。

情報・コミュニケーションについて 校舎1階廊下に情報スペースを設置。安否情報や避難所情報などを掲示板によって伝える。不安な避難生活中で重要な役割を持つ。1階の普通教室1部屋をコミュニケーションルームとする。昼間は被災者どうしがコミュニケーションを取り憩いの場として開放。互いを知ることで安心につながる。

グラウンド 車用スペース・テントスペースの位置

・車での避難者は相当数予想されるので、広めに設置。
・テントを奥、グラウンド入り口付近に車用スペースとして、車の渋滞や混乱を避け、テント居住者の安全に配慮する。また車は一方通行とする。

ペット受け入れ場所 ペット嫌いな人にも配慮し、避難所から離れたバックネット裏に配置。網にリードを結ぶことでペットの脱走を防ぐ。

遊び場・スペース 幅広く、木が障害物になつて子供が楽しめる。

・ベンチがあるので親が見守れる。
ゴミ置き場・臭いをさけるためなるべく離れた所に設置。

・ゴミ收集車が農道を通ってゴミを取りに来れるようにした。

トイレ 校舎内のトイレは校舎開放直後すぐに使用禁止にする。

・校舎外に数ヶ所に設置することで、どこからでもすぐにトイレに行けるようする。夜間の安全、場所がわかるようするため、できるだけ照明機器の近くに設置。お年寄りのいる美術棟近くには洋式のドントコイを設置する。

・便座と便ぶくろは校舎や体育館のトイレで利用するようする。

・素掘りトイレや側溝利用のものは衛生面から必要にならない限り作らない。

体育館 物資を多くの人が見える場所に運び込むことで安心感と盗難を防ぐ。食糧配布時に順番に受け付けられようするためステージを配布場所とする。体育館内で具合の悪い人がすぐ診てもらえるよう、保健室以外にも診察室を設置。

避難所プランをやっての感想 普段から避難所について考えておくことの重要性がわかった。水や食糧の大切さを改めて理解した。人と人の結びつきのために、普段からの近所づきあいが大切である。自分勝手な行動をしないこと、ルールやマナーを守る意識を高めることが重要。

学校が避難所になった時には、施設のことをよくわかっている自分たちにも手伝えることが多いのではないかと思った。

3組

はじめに

3組の避難所プランのテーマは「平等」「ルールを守る」です。実際の災害が起こり、避難所生活をしなくてはいけなくなったとき、大勢の人が学校に押し寄せてくるでしょう。そのとき避難してきた人たちが物の取り合いになったり、それぞれが権利を主張してぶつかったりすることがないように、計画的なプランが必要です。避難してきた人たちが平等に、そして、自分たちでお互いを支え合えるルールをつくり、実行でき、少しでも過ごしやすい避難所。それが3組の目指す避難所です。そのテーマをもとにトイレ・授業に使う教室やグラウンドなどを工夫しました。

トイレ

トイレは16カ所設置しました。校舎内に3カ所、外に13カ所です。校舎内の3カ所は、水が使えないためビニール袋を中にします。外はグラウンドの砂場の今あるトイレの中にドントコイをおきます。そこは、テントに移住している人達が使います。それ以外には、美術室の裏の畠がすばりトイレとして使えるので、けがをされている人やお年寄りの人達が使います。外のトイレは、まわりの木にビニールシートで壁をつくり、プライバシーを守ります。そうじは地区ごとのローテーションにします。

体育館

体育館でも、トイレを使えるようにしました。トイレを使えるところが少ないのですが、少しでもトイレを使える量を増やすためにビニール袋を便器に取り付けて使います。器具庫はなにかに使おうとしても中に荷物が詰まって逆にじゃまになるので使いません。それ以外に体育館には、更衣室・情報交換場所・臨時の食料配布場所・食料置き場・個人の荷物置き場・物資置き場を設置しました。フロアは居住スペースで、通路で地区ごとに区切り254人収容できます。

校舎

校舎の中の掲示板・総合受付・救護保健場所・要援護者用場所・食料配布場所・授業に使う教室・居住スペースを設けました。居住スペースは家族構成で割り振り、3人家族用・4人家族用などと分けました。結果校舎に居住できる人数は315人程度となりました。

グラウンド

グラウンドには、救援物資保管場所・ペットスペース・掲示板・配給所・炊き出しへース・給水車スペース・駐車スペース・道路・ゴミ置き場・仮設トイレを設置しました。ヘリポートは場所が足りないので、もし必要なら畠などを借りるように考えました。設置のポイントは、おいのあるものをグラウンドの左下、生活に必要なものをグラウンドの半分より上にまとめたところです。

まとめ 今は、まだ地震は起きないからといって地震はいつ起きるかわからないものです。もしかしたら私たちが予想しているよりももっと多くの人が来るかもしれません。もしそうなら、お互いに助け合える避難所にできればいいと思います。清掃や食料の分配など地区ごとの当番制にするなど避難してきた人たちが自分たちのルールを作って守っていくことが大切です。自分だけではなく、相手のことも考えられれば避難所にとっても、私たちにとってもいいことだと思います。

最後に、計画を立てないで地震がくるより、こうして計画をたてて学習することは、少しでも安心できるし、心の準備でも物資の備えの面でも必要だと思います。この学習は初中の中だけではなく、初声の人・三浦の人、全体に広がっていく学習だと思います。

3組代表案

